

越後 水無川滝ノ沢左俣

小暮

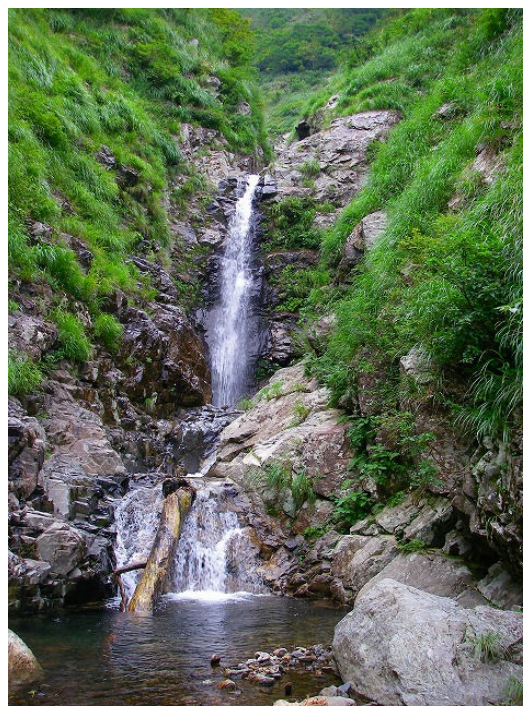
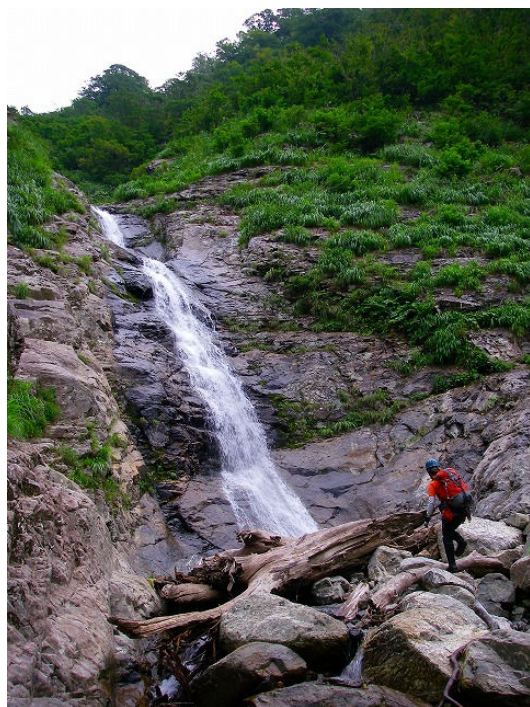
【日時】 2006年10月1日(日)

【メンバー】 小暮(L)、矢野、笹川

越後の水無川は登攀的な沢が多く、岩登り的な遡行となるため入渓はいつも緊張させられる。今回は、最近調子の良い矢野君の希望もあって滝の連続で非常に登攀的な滝ノ沢左俣を目指すことになった。この沢、のんびり遡行しているとビバークになってしまう。事前の天気予報は右往左往して大変悩んだが、前日になると日中は晴れることが確定。やめる理由もなくなってしまった。覚悟を決めて朝早く出発し気合で抜けることになった。

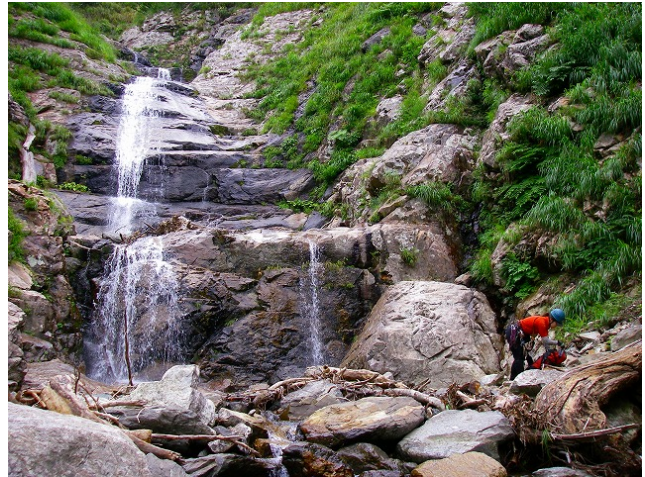
十二平の手前には雪渓が残っていた。登山道から水無川の本流に入って、デトノアイソメへ。スノーブリッジを越えると滝ノ沢の出合に着いた。出合いには12mの滝がかかっている。ここは、小暮が左壁にザイルの伸ばして滝上に。なかなか登攀的である。しかしこれも、まだまだ序の口である。

続いて10m3段を登り、5m滝も登る。F3, 8mはガイド等では左岸を巻くらしい。確かに灌木から容易に巻けそうだったが、突破口を矢野君と探す。容易そうに見えた左岸の草つきから矢野君がチャレンジするが見た目より悪かった。途中で行き詰まり、灌木にスリングを捨て縄にして懸垂して戻った。今度は小暮が水流右から再チャレンジ。なんとか突破。一部ハングしていて非常に悪かった。さらに4mの滝があるので、ラストで登った矢野君にそのまま左岸にロープを伸ばしてもらおう。続いて、30m4段滝。あまりロープを出していると時間がなくなるので、おのおのフリーで越えたが、なかなかの緊張感だ。



少し進むと、並び滝で三俣になっている。左右に10m程度の滝がかかっている。まさに並び滝。左俣の真ん中に入る。ここからも、滝、滝、滝の連続である。ロープを出すほどではなく、楽しい滝登りが続く。

微妙な登りが続いて、次第に時間が気になってきた。現れたのは、正面はガレで、右は壁から4mの滝がかかっている。滝の直登はザイルを出していけばいいのだが時間がかかりそうだったので、ガレ沿いの右岸のスラブ混じりの草つきから適当に越えることにする。矢野君はするすると登っていく。小暮と笹川はもう少しガレを登ってトラバース気味に上がった。沢へは、10mの懸垂で戻る。さらに進むと同じように、正面はガレで、右から連瀑がかかっている。



正面へ進めば早めに登山道にエスケープできるがそういう訳にはいかない。時間は12時でまだ余裕だが、ここにきてこの連瀑とは恐れ入る。最初の滝はフリーで取り付くが、雪解けの泥と小石に覆われていて嫌らしかった。さらにもう一段登って上流部の滝を見上げると、かなりの傾斜でホールドも乏しいのが見て取れる。ガイドは左岸を巻いたようだが、結構な藪でうっとうしい。中段の滝の左側の2mの垂直の壁をあがれば楽に巻けそうだが、ショルダーを使ったり、凹角から試したりしたが、最終的に打ったハーケンにアブミをかけて一步をあがった。そのまま、灌木をつかんで3段分の滝を越えた。上からみるとホールドの無い垂直の滝だったので巻いて正解だった。

その上は、小滝が出てくるだけとなる。部分的に悪いところがあり、3mほどの滝だったがホールドが怪しい草しかない80度の滝で怖かった。フリーで気軽に取り付いたことを後悔した。

最後は藪漕ぎもたいしたことなく、登山道へ出た。15時をまわっていた。出合いから8時間超。順調に登ってこの調子なので、足のそろっていないメンバーだったりするとビバークになるでしょう。

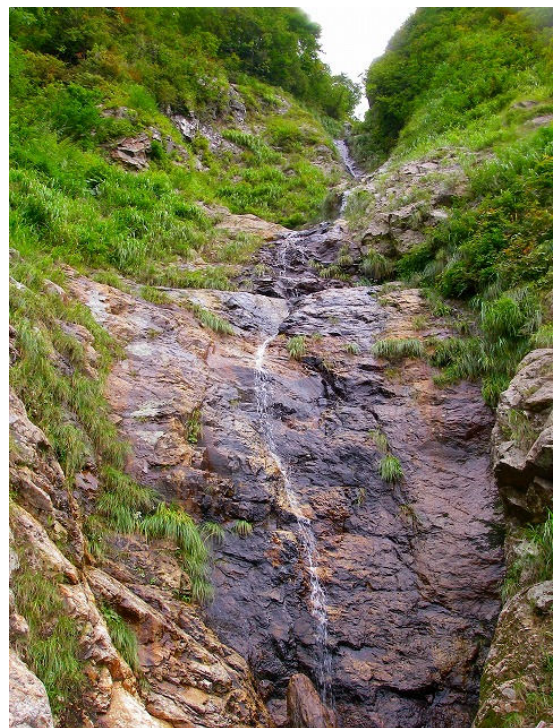
あとは、一目散に急傾斜の登山道を駆け下って下山した。大変だったが大変充実した山行だった。これだから水無川は楽しい。

【行程】

10/1 荒山登山口(5:05)～笹花沢出合(6:00)
～デトノアイソメ(6:45)～滝ノ沢出合
(6:55)～並び滝(10:50)～稜線(15:05)～十二平(16:50)～登山口(17:30)

【地図】 八海山

【グレード】 4級下



水無川滝ノ沢左俣

